

# 平成 30 年度 事業計画

公益財団法人 日本股関節研究振興財団

## I 基本方針 — いつまでも元気で歩くために —

公益財団法人 日本股関節研究振興財団は、股関節に関する研究、診断治療技術の開発及び運動器の健康寿命を延伸するための研究を奨励して参りました。

人間は沢山の関節を持ち、これを意識的にあるいは、無意識に駆使しながら生活しています。この沢山の関節の中で最も大きく、また、複雑な運動をしているのが股関節です。そのため、股関節疾患には、発育性股関節脱臼、変形性股関節症、ペルテス病、大腿骨近位部骨折、股関節の脱臼骨折など、いずれも簡単に治療できないような疾病がその名を連ねています。

本年度も当財団は、股関節で悩んでおられる多くの人々のために活動を展開いたします。

一方、日本は世界一の長寿国となりました。しかし必ずしも全ての人が元気なまま、長寿を全うするわけではありません。統計によれば、平均寿命から心身ともに自立した生活を送ることが出来るいわゆる健康寿命を差し引いた期間は9～13年にもおよび、この期間は、病気で入院したり、寝たきりや介護を受けていることとなります。このような介護状態を減らし、いつまでも元気で歩くために、特に人間の歩行に重大な機能を担っている股関節をケアすることが重要となっております。

これに関連し、近年、国の「新健康フロンティア戦略」及び「健康日本21」の事業が推進されており、また、公益社団法人 日本整形外科学会の提唱する「ロコモティブシンドローム」という新しい概念も誕生しました。

我が国が超高齢社会となっている現在、当財団も新たな転換点を迎え、

平成 23 年 12 月に公益財団法人へ移行し、さらに、平成 29 年 2 月には、財団設立 30 年を迎えて、その役割はさらに大きなものとなりつつあると考えております。

今後とも、当財団は、股関節の不安を取り除くための「股関節の学術研究の奨励と股関節に関する普及啓発」に加え、「ストップ・ザ・ロコモティブシンドローム」及び「健康寿命を伸ばす」ための活動を展開し、社会貢献を果たして参ります。

## Ⅱ 個別事業

### 1. 助成事業（公1）

#### （1）助成金支給事業

##### ① 研究助成事業

股関節疾患及び股関節に関する他の疾患の学術研究、診断と治療技術の開発及び健康寿命を延伸するための研究に関する優秀な研究に対して、公募により助成を行います。

ア 助成金額 総額 210 万円以内、1 件 70 万円以内

イ 助成件数 3 件以内

ウ 選考方法 理事会で選出された学術経験者による助成選考委員会にて内定します。

## ② 研修助成事業

股関節医療の発展に貢献できる人材を育成するため、海外及び国内の研究機関において、トップレベルの研究者から専門知識を習得するための研修に対して、公募により助成を行います。

### ア 海外研修助成事業

- (7) 助成金額 総額 100 万円以内、1 件 50 万円以内
- (イ) 助成件数 2 件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による海外研修助成選考委員会にて内定します。

### イ 国内研修助成事業

- (7) 助成金額 総額 80 万円以内、1 件 15 万円以内
- (イ) 助成件数 4 件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による国内研修助成選考委員会にて内定します。

## (2) 研究・研修成果報告書作成事業

研究及び研修助成金の成果報告書を作成し、厚生労働省、各大学医学部及び関係機関に配布します。

研究成果報告として、本年は、平成 28 年度に当財団が交付した研究助成金により、平成 28 年から平成 29 年に実施された 3 件の研究の成果を取りまとめます。

また、海外研修成果報告として、平成 28 年度及び平成 29 年度に当財団が交付した研修助成金により実施された 6 件の研修の成果を取りまとめます。

① 研究成果報告書

ア 「日本人ゲノム解析ツールによる股関節形成不全の疾患感受性  
遺伝子の探索」

東北大学 森優

イ 「変形性股関節症の発生率およびその危険因子の解明：地域縦  
断コホート調査」

東京大学 飯高世子

ウ 「活動性の広がりと運動機能向上を目的としたロコトレと二重  
課題トレーニングによる健康増進事業」

H I T O病院 岩瀬美保

② 海外研修成果報告書

ア 平成 28 年度

(研修先)

UCSF Medical Center

University of Utah

Stanford University

(研修者)

山形大学医学部整形外科学講座 高窪祐弥

北里大学医学部整形外科学 福島健介

九州大学大学院医学研究院整形外科 本村悟朗

イ 平成 29 年度

(研修先)

Hospital for Special Surgery

Duke University

Boston Children's Hospital

(研修者)

広島大学大学院人工関節・生体材料学 庄司剛士

紺整会 船橋整形外科病院 田巻達也

神戸大学大学院整形外科 林申也

### (3) 股関節研究セミナー開催事業

医療関係者等に対して股関節疾患に関する治療方法等の研究成果並びに海外および国内研修成果報告のセミナーを10月に開催予定です。

#### ① 研究助成事業

本年は、平成27年から平成28年にかけての研究について、下記の4件の研究成果を発表する予定です。

ア 「高齢発症変形性股関節症の疫学と病因に関する研究—骨粗鬆症の関与から、病態解明・予防に向けて—」

鹿児島大学 石堂康弘

イ 「滑膜由来炎症性メディエーターに着眼した前・初期股関節症における疼痛発生機序の解明」

北里大学 福島健介

ウ 「人工股関節再置換術時骨欠損部における骨髄内骨再生技術の開発」

エ 「大腿骨頸部骨折受傷後に回復期リハビリテーション病棟に入院を要した要介護高齢者の身体機能予後について」

東京大学 柴崎孝二

② 海外研修助成事業

本年は、平成 30 年度の研修について、研修結果報告を発表する予定です。

③ 国内研修助成事業

本年は、平成 30 年度の研修について、研修結果報告を発表する予定です。

2. 普及啓発事業（公 2）

（1）股関節市民フォーラム開催事業

一般市民の方々を対象に、股関節の病態、予防等についての正しい知識をわかりやすく、楽しい講演を中心に股関節市民フォーラムを開催の予定です。

（2）普及啓発事業

本年度は、平成 27 年度よりホームページに連続掲載した股関節に関する情報を取りまとめ、広く一般国民の方々向けに発信して普及啓発を図り、股関節疾患の予防についての周知を展開します。

（3）インターネット情報提供事業

本年度もさらに、ウェブサイトの内容を充実し、より見やすく、利用しやすいように情報公開します。

### 3. 運動器健康寿命延伸事業（公3）

#### （1）運動器健康寿命延伸体操の研究開発及び普及促進事業

健康寿命延伸のための股関節を中心とする「運動器健康寿命延伸体操（ロコモ体操）」の研究開発をすすめ、外部機関が開催する講演会等へ出演し、「ロコモ体操」の普及を促進します。

#### （2）体操指導者研修事業

運動や体操を指導する専門家が不足しているため、運動器や体操の、特に、股関節の重要性と正しい知識を広く国民に周知、普及させるため、専門家養成研修を実施する予定です。

### 4. 管理事業

#### （1）理事会

日 程	開催場所
平成 30 年 5 月	神戸市（予定）
平成 31 年 2 月	東京都（予定）

## (2) 評議員会

日 程	開催場所
平成 30 年 6 月	東京都（予定）

## (3) 監事監査

日 程	開催場所
平成 30 年 4 月	東京都（財団会議室）

## 5. 股関節らくらく募金

平成 25 年秋より実施し、現在参加者数 94 名（平成 30 年 1 月現在）です。

本年度は、参加者数の目標を 120 名とし、財源の安定化及び事業の拡充を図ります。